

実家の片付けを遺品整理業者に頼むという選択肢が普及しつつある。しかし、トラブルも少なくない

PIXTA



遺品整理業者とのトラブル経験は4割 失敗しない優良業者の選び方

空き家になった実家活用のハードルとなる遺品整理。大量の遺品や家財を自力で片付けるのは困難で、専門業者に頼むことが早道だ。遺品整理で失敗しないためのポイントとは？

遺

品整理業者とのトラブルは約4割――。親が亡くなり、空き家となった実家を片付ける手段として普及しつつある遺品整理業者への依頼。しかし、トラブルも少なくない。

遺品整理に関する情報サイト「みんなの遺品整理」を運営するライフルシニアが、遺品整理・生前整理を業者に依頼した約500

人を対象に2023年夏に調査したところ、「トラブル経験あり」と回答した人は36・2%に上った。

トラブルの内容別に見ていくと、「作業終了後の理不尽な値上げ」が9・4%と最多に。続けて、「サービスのクオリティーが低かった」と「不適切な価格での買い取り」が8・6%で並び、「物の破損・乱雑な作業」が8・4%、「片付けごみの不法投棄」が8・2%などと続いて、内容は多岐にわたる。相続した実家を賃貸・売却して活用したいならば、遺品整理は避けられない。片付けの手間を考えると、業者に依頼することは有効な選択肢だ。どうすれば失敗しなくて済むのだろうか。

02年に日本で初めて遺品整理専門の会社として創業した業界のパイオニアで、年間約2000件の遺品整理を手掛けるキーパーズの代表取締役、吉田太一氏に、失敗しないための業者選びのポイントについて解説してもらった。

トラブル回避の質問 「作業当日も来る？」 見積もり担当に確認

吉田氏がポイントとして挙げるのは見積もりだ。最近ではオンラインで見積もりが可能な場合もあるが、現場となる実家呼び、実際に現場となった方がトラブルを回避しやすい。

そして、見積もりに訪れた担当者に対して、「作業当日はあなたも来るのか」と確認することが重要だという。

当日に見積もりの担当者が不在で作業員だけの場合には、見積もりの際に伝えた要望が作業員に届いていないなど、話が食い違っても少なくない。当初の予定になり作業があったなどと、追加料金を請求されるリスクも高まる。

また、見積もりの際に、遺品整理をどう進めてほしいのかということも大切だ。片付けてはいけない品は何か。貴重品が見つかった場合にはどうしてほしいのか。望むことを自分の中でしっかりと固め、疑問に思ったことは見積もりの担当者にとんどん質問しよう。

遺品の中で価値のありそうなものを買収してもらいたい場合は、

きちんと古物商許可を得ている業者か確認しておこう。

加えて、遺品が不法投棄されてしまふことを避けたいならば、一般廃棄物収集運搬業の許可がある、または許可を持つ業者を手配してくれるのかや、家電を廃棄する場合には、家電リサイクル法（特定家庭用機器再商品化法）にのっとり処分してくれるのかを確認するのがいいだろう。

他にも、故人が愛用していた品を供養してから処分するサービスを手掛ける業者もある。遺品供養の場に参列することで、遺族の気持ちの整理がつくことも多い。そのまま処分するには忍びないものがあるならば、遺品供養サービスの有無を聞いておきたい。

遺品整理が満足のいく結果になるよう、見積もりに訪れた担当者との交渉で、納得できる答えを出してくれた業者を選ぶことが失敗しないためのコツだ。

「遺品整理は故人のものを片付ける仕事だが、故人の思いを大切に、遺族に向けたサービス業だ」
(吉田氏)

遺品整理は故人との最後の別れの場でもある。後悔しないためにも、遺族に真摯に向き合い納得のいくサービスを提供してくれる業者を選びたい。